

踏み跡 <My Mountains>

愛知	愛知県で一番低い山(潮海山)	No.333
----	----------------	--------

平成 28 年 3 月 1 日

勝田台 7 時 37 分発東葉高速線・地下鉄東西線経由で大手町に 8 時 37 分に到着。ここから多少長めではあるが地下道を歩くと東京駅八重洲口の地下に出られる。平日の通勤ラッシュの時間帯にゆったり座って東京駅へ向かうのにはこの方法が一番。たとえ雨が降っても濡れずに東京駅に入れるのも便利。

東京発 9 時 26 分発こだま 643 号は名古屋行なので、それほどには混雑していなかった。天気は快晴で山側窓際の E 席をとった意味があった。居眠りをするとう富士山が見られないので、早速車窓の眺めに集中。

都内を走る内から白髪をたつぷりと付けた富士が遠くに見え、様々なアングルから視界に入ってくる。横浜市の郊外を走るようになると丹沢・大山の山塊が表れて、互いの位置を少しずつ変えながら窓に近づいてくるのが面白い。神奈川県中部まで来ると、大山の扇型の山容が大きく目立ち、丹沢山塊全体は副食のような存在になる。この時は富士は少し離れた場所に風格を以って座っている感じになる。そして小田原に近付いてくると箱根山群が富士の手前に立ちはだかるようになり、左から少しずつ山群の陰に引き込まれて行く。一時すると富士は山群の反対側から再び姿を現すが、今度は箱根に代って愛鷹山がその役を演じる。

三島を過ぎて富士市に入る頃からようやく何の妨げもない一人立ちの富士が車窓に入るようになる。(右写真：富士市を走る車窓から)そして富士川鉄橋を渡ると後方に去っていく。このスリルたつぷりなわくわくするような時間は魅力的だ。



静岡を過ぎてから居眠りに入ると乗り越す可能性があるので、引き続き車窓の変化を楽しみ続けた。豊橋には 11 時 41 分に到着。駅ビルの中のサンジェルマンで昼食用のパンと牛乳を買い、カバンをコインロッカーに預けてザックひとつで隣に建つ豊橋鉄道渥美線の新豊橋駅へ。

新豊橋 12 時 15 分発の三河田原行、平日の昼間なので乗客は少なく車内で昼食をとるのには最適。渥美半島を車窓から眺める 35 分の旅を終えて終点の三河田原駅に 12 時 50 分到着。

快晴ではあるが強い風にあおられるので日陰に入るとぶるっと震える冷たさだが、日向ではシャツの襟元を開けても良いような温かさ。予めの調べでは駅前に貸自転車がある筈だったので駅員に尋ねてみたら、駅で取り扱っていた。無料の貸自転車の荷物籠にザックを入れて、二万五千分の一の地形図をポケットに入れて 13 時過ぎに出発。

駅から歩くのには少々距離がある道のりだが、三段切り替えギヤー付きの自転車で向かい風もなんのその、風を避けるために汐川の西側の山の端を走る道を南へ。周辺の景色を楽しみながら 15 分か 20 分ほどで新美(にいのみ)と言う集落に入った。ここから東南東に進路を取り汐川に向かって走ると、水田地帯の末端の汐川の岸にこんもりとした突起を発見。地図と磁石とで入念に確認をした結果、これが目指す山であることが確定。

事前の調べでは「南西の斜面に道が付いているが山頂までは至っていない」ということだった。自転車を道ばたに置いて南西側に歩を進めると、手作りの鳥居とその下を潜り抜ける荒削りの階段が現れた。ゆっくりと登って見ると、途中から山道になり

一瞬期待を抱かせたが、数分で小さな祠で行き止りになった。祠の後は深い藪で、かなりきつい藪こぎをしないと山頂には行けそうもない感じ。元に戻り周囲を歩いて見ると北西の角に伐採の作業を中断したような切り開き

が確定。事前の調べでは「南西の斜面に道が付いているが山頂までは至っていない」ということだった。自転車を道ばたに置いて南西側に歩を進めると、手作りの鳥居とその下を潜り抜ける荒削りの階段が現れた。ゆっくりと登って見ると、途中から山道になり一瞬期待を抱かせたが、数分で小さな祠で行き止りになった。祠の後は深い藪で、かなりきつい藪こぎをしないと山頂には行けそうもない感じ。元に戻り周囲を歩いて見ると北西の角に伐採の作業を中断したような切り開き

一瞬期待を抱かせたが、数分で小さな祠で行き止りになった。祠の後は深い藪で、かなりきつい藪こぎをしないと山頂には行けそうもない感じ。元に戻り周囲を歩いて見ると北西の角に伐採の作業を中断したような切り開き



が確定。

事前の調べでは「南西の斜面に道が付いているが山頂までは至っていない」ということだった。自転車を道ばたに置いて南西側に歩を進めると、手作りの鳥居とその下を潜り抜ける荒削りの階段が現れた。ゆっくりと登って見ると、途中から山道になり

一瞬期待を抱かせたが、数分で小さな祠で行き止りになった。祠の後は深い藪で、かなりきつい藪こぎをしないと山頂には行けそうもない感じ。

元に戻り周囲を歩いて見ると北西の角に伐採の作業を中断したような切り開き

踏み跡 <My Mountains>

を発見。切り開きの先はちょうど最高点に向かっているような角度なので、期待して踏み込んで見た。竹や雑木を切って片付けながら丁寧に作られた切り開きは少しずつ右にカーブしながら登っていき、やがて大きな石碑が二基建つ山頂に到達した。石碑は頭が割れている上に表面は風化してかなり傷んでいるが、刻みに指も添えて確かめてみたら「明治十八年 征清記念」と読み取ることができた。日清戦争の勝利を記念したものと思われるが、誰がこれを建てたのかは読み取れなかった。インターネットで調べた雑情報によれば、石碑の間に立つ紅白の小さな杭には山の名前が書いてあったらしいが、今では文字は見えなかった。ともかく「愛知県で一番低い山 潮海山（ちょうかいさん） 海拔 27m」に登頂成功。時計を見ると 13 時 45 分、何枚も写真を撮って山頂を辞した。

再び南西側の祠への登路に回って、他のルートの有無を確認したが何もなかった。鳥居の脇の鉄パイプに円い鉄板が下がっているのが気になった。手に取って見ると「古くより女性がこの潮海山に立ち入るとわざわざいさかされておりますので立ち入らぬいでください 新美神明社」と書いてあった。



新美神明社はこの山から北西に 5~6 分歩いたところにある神社である。この神社と潮海山との関係がよくわからないが、ことによると・・・とこんな想像をして見た。

この山は、昔は西側に走る尾根の末端にあったが、治水事業または農地開拓事業の一環として神社が土地を提供し、尾根の末端を削って農地にした。

それにしても、何故「女人禁制の山」だったのか、これも大きな疑問点になる。帰宅後の宿題ができた。帰り道は地図を見ながら風景探訪を楽しみ、一時間半ほどかけて駅に戻った。三河田原駅 15 時 10 分帰着。向かい風になるとかなり厳しい強風の中のポタリングは、所要時間の割には疲労感が残った。

15 時 47 分発で新豊橋に戻り、豊橋駅ビルの地下で登頂記念と称して早目の夕食。そして早くて安い名鉄の特急で名古屋へ移動し伏見のホテルへ。明日は高校時代の同級生と名古屋で昼食雑談会の後帰宅の予定。

以上